

5 番	三宅 聡 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1. 小中学校のICT化と教員の働き方改革について</p> <p>【質問趣旨】</p> <p>平成28年度の文部科学省の教員勤務実態調査の結果を踏まえた推計によると、小学校の教員は年間800時間、中学校は1100時間程度の時間外勤務を行っています。そして昨年10月、第200回臨時国会において公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法(給特法)が改正され、時間外勤務を月45時間、年360時間以内とする上限ガイドラインが法的な根拠を待つ「指針」となり、衆・参両院における附帯決議で「各地方公共団体に対して、指針を参酌したうえで条例・規則等そ</p>	<p>(1) 小中学校における教員の働き方改革について</p>	<p>① 文部科学省の「令和元年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」によると、「ICTの活用やタイムカードなどにより勤務時間を客観的に把握している。」と回答した教育委員会は都道府県で66%、政令市は75%、市町村は47.4%という状況です。適切な時間の管理がされなければ長時間勤務を止めることは出来ません。同時に勤務時間の把握に際しては、できる限り管理職や教員に負担がかからないようにすることも重要であります。本市におけるタイムカードなどの客観的方法を通じた在校等勤務時間の適正な把握の状況はどうなっていますか。</p> <p>② 今回の給特法改正では、教員の時間外勤務の上限目安を月45時間、年360時間と設定した「上限ガイドライン」が法的根拠のある「指針」に格上げされました。愛知県においてもこの指針に則り、業務改善を行う旨の条例改正が行われるものと思いますが、このような動向を踏まえ市内小中学校に関する学校管理規則(教育委員会規則)において、具体的な上限を明記する準備は進んでいますでしょうか。</p> <p>③ 今後は、定められた時間外勤務の上限を踏まえた業務の適正化の徹底が求められます。そこで改めて伺います。この教員の働き方改革の真の目的は何であるか。見解を伺います。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

5 番	三宅 聡 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>のものに教育職員の在校等時間の上限時間数を定めるよう求めること」が盛り込まれました。</p> <p>また一方、昨年12月、文部科学省は「GIGA スクール構想」として学校 ICT 環境の抜本的な改善と、ICT を効果的に活用した創造性を育む学び、多様な子ども達をだれ一人取り残すことのない公正に個別最適化された学びの実現を目指していくことを打ち出しました。特に、子ども達1人1台のコンピューター端末と学校の高容量の通信ネットワークについては、令和の時代における学校のスタンダードとして整備していくこととされています。</p> <p>この学校の ICT 化は児童生徒の無限の可能性を大きく開く</p>		<p>④ 質問趣旨で触れました文科省の取組状況調査によりますと、全国の教育委員会が時間外勤務の縮減に効果が高いと考えている上位5項目は「部活動ガイドラインの実効性の担保」「学校閉庁日の設定」「ICT を活用した事務作業の負担軽減」「留守番電話の設置やメールによる連絡対応の体制の整備」「部活動への外部人材の参加」でした。本市として、来年度、学校における働き方改革を具体的にどのように進めていこうとお考えなのか。また、進めていく上でどのような課題があると分析されていますか。</p> <p>⑤ その具体的な働き方改革を実行していくために、学校をどのように支援しようとお考えか、見解を伺います。</p> <p>⑥ 学校の ICT 化は子ども達にとってまさに画期的なことでありますが、教員にとってもその働き方改革を成し遂げる為のツールとして、大変重要であると考えます。本市としてどのように取り組んでいかれるか。見解を伺います。</p> <p>⑦ 一方、有名で人気のある教員のオンライン授業や、自動で出題・採点がされる AI ドリルが普及すれば教員の役割はとって代わられるのではないかと、という声も一部からあるようですが、当然ながら全くの誤りであると思います。どこまでいっても学びには、人と人との直接的な関りが不可欠であり、教育の成否が目の前にいる教員にかかっているということに変わりはないと考えます。子ども達の数が増える中であっても、教員の数確保することは、引き続き不可欠です。子ども達一人一人の変容を見取りながら、適切な学びが可能となるような環境を実現できるよう、今後教員数をどのように確保して行こうとお考えか伺います。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

5 番	三宅 聡 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>ものであると共に、教育職員の働き方改革を進める上でも大変重要であると考えます。このような観点から本市の見解を伺います。</p>	<p>(2)GIGA スクール構想の推進について</p>	<p>① これまでも学校教育の情報化 (ICT 化) への推進は進められてきたものの、その予算化は各自治体に委ねられ、その推進状況には差がありました。本市では、現時点でどの程度整備されていますか。</p> <p>② 現在、国の「GIGA スクール構想」では令和5年度までに、子ども達1人に1台コンピューター端末の整備を目指しています。本市としても、早急に整備を加速化していく必要があると思いますが、具体的にどのようにして1人1台を実現する計画ですか。</p> <p>③ コンピューターを効果的に使用するためには、十分な通信ネットワーク環境が不可欠です。このネットワークの整備については、政府の令和元年度補正予算 (案) において、全国の全ての学校での所要額が計上されており、今回限りの補助となると聞いております。今回の補助を活用しないと本市が全額を負担して整備しなければならず、一刻も早く対応すべきと考えます。今後、どのように学校の通信ネットワーク環境を整備していく計画でしょうか。</p> <p>④ 一方、これらの「ハード」を整備することは、あくまで手段です。それを如何に効果的に使い、子ども達の学びを豊かにしていくかが大切になってきます。「ハード」が整備されても、それが使われなくては意味がなく、教員が ICT を活用して指導する力も高めていかなければなりません。教員が ICT を効果的に活用できるために、市としてどのように取り組んで行こうと考えていますか。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

5 番	三宅 聡 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
		<p>⑤ 既に子ども達は学校外でネット上でのチャットやゲームなど様々な用途で、ICTを活用している実態がありますが、今後の情報モラル教育の充実や有害情報対策などに、どのように取り組んでいけますか。</p> <p>⑥ ICT機器は障がいのある子ども達にとって、一人一人に応じた最適で効果的な学びを提供するために役立つだけでなく、情報保障やコミュニケーションツールとしても重要なものです。また、遠隔教育は病気療養中の子ども達の学習機会の確保にも資するものであります。このように、特別支援教育の充実に際し、ICTは欠かせないものであると考えます。本市として今回の特別支援教育におけるICT活用について、具体的にどのように取り組んでいられるか伺いたいと思います。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。